

## 復活の主日(日中)(ヨハネ 20:1-9)

あなたは復活の証人に造り変えられた



あらためて主の御復活おめでとうございませす。この説教もまた、さっきまで徹夜祭の説教を書いていて、その後に準備したものです。よくまあ頭が切り替わるものだと感心します。

復活の主日日中のミサで朗読される箇所はヨハネ福音書 20 章です。典礼暦が A B C 年あるのにほかの選択肢はありません。「空の墓」がさらに強調されています。そして弟子たちは、復活徹夜祭の説教で触れたように、何はともあれ「空の墓」を訪ねることから始めます。

今年の聖週間説教は、テーマを決めて準備にかかりました。それは「イエス・キリストによる人類の和解」です。多少テーマに合わせようと無理をしたかも知れませんが、それでもあえて、「和解」をもたらす方は「仲介者イエス」を置いてほかにないことを確認したかったからです。

ウクライナの凄惨な映像の中で、教会が映っていました。テレビに映っていた教会の中でも「イエス・キリストによる和解」を祈り続けていたと思います。今年の聖週間は、ロシアのウクライナへの侵攻が終わって、両国が和解できるように皆さんと一緒に祈りたかったのです。

そしてこの聖週間の締めくくりとなる日中のミサの中で、空の墓を訪ねたペトロともう一人の弟子とともに、復活の証人に造り変えられたいのです。どんな人にも和解の手を差し伸べ

るイエスを捜し求めたが墓は空だった。それでもイエスは和解のために手を差し伸べてくださるはず。それはどこでどのように行われるのか。

イエスが愛しておられたもう一人の弟子は気づきました。「イエスは必ず死者の中から復活されることになっている」と。和解を必要としているすべての人は、これからは墓に納められたイエスではなく、復活してくださったイエスと和解させてもらおうのだということです。

この後弟子たちはガリラヤへ行くように言われます。ガリラヤはイエスと弟子たちが宣教活動を繰り広げた場所です。今回ガリラヤは復活したイエスと和解するための場所となります。復活節第二主日の朗読では「あなたがたに平和があるように」とイエスが招いています。

復活したイエスから和解の手を差し伸べられて、人は断ることができるようでしょうか？ 私たちはその手を黙って握り、新たな気持ちでイエスについていく。できることはこれだけです。

私たちの至らなさを十字架にはりつけ、復活して私たちにゆるしの恵みで覆って証し人に造り変えてくださる。「忙しくてイエスを人に伝える暇が無い」と、本当に言えるでしょうか。

復活したイエスは、私たちが生活の中心にしている場所、「私たちのガリラヤ」で待っておられ、和解の手を差し伸べてくださいます。あなたはその手を、暇を見て握るのでしょうか。真っ先に手を取り、生活の中心にお迎えするのでしょうか。あなたが本当にイエスを信じているかが、今問われているのです。

神のいつくしみの主日(ヨハネ 20:1-9)